

福岡教区の兄弟姉妹の皆さまへ

主のご復活の喜びを申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大を防ごうとして、教会の活動はほとんどストップされている中で、思いがけない電話がかかって来ました。

教皇フランシスコはわたしを福岡教区に

派遣することを決められたと、電話の向こう側で教皇大使ヨゼフ・チェノット大司教は仰いました。言うまでもなく、深い戸惑いを感じました。しかし、教皇様からの派遣ですし、きっと丁寧な識別のプロセスの結果だろうと考えて、「はい、分かりました」と答えたのです。



福岡教区とほとんど関わりのなかったわたしは、昨年の教区司祭の年の黙想会の指導を頼まれて、祈りのうち一週間を共に過ごただけです。このわたしは、これから皆様と一緒に歩むこととなります。「一緒に」を強調したいのです。今までの福岡教区の歩みを踏まえて、現状をしっかりと心に留めて、共に歩ませてください。学ばなければならないことばかりですが、皆様の温かいご協力をお願いいたします。

どうしてわたしが派遣されたかと、わたしも皆様も考えるでしょうが、わたしは主の呼びかけとしてこの派遣を受け入れたいと思います。少しずつ知り合っていく中でわたしたちは、共にいることを喜び、教会として大事にして行きたいことを識別し、お互いに支え合いながら与えられた使命を果たして行きましょう。わたしの心からの望みはこれです。昨年の教皇フランシスコの訪日を受けて、日本の現代社会のうちに福音の光をともしましょう。

わたしの司教の紋章を通して、わたしに与えられた司教としての使命を表してみました。皆様に紹介したいと思います。

- 「**キリストの愛に駆り立てられて**」。パウロのコリントの教会への第二の手紙の5章14節です。わたしたちのキリスト者としての生き方の源泉であり、福音宣教の原動力です。「神の国」の他に、目的とするものはありません。
- 開かれている本は、神のみことばです。わたしたちの歩みを照らし導くことばです。
- 鳩は、聖霊を表し、平和への願いをも表しています。
- 炎は、聖霊に満たされ、人々への愛に満ちているマリア様の心を表しています。

聖週間で、イエスの死と復活を記念したところですが、この愛の神秘に照らされて歩んで行きたいと思います。大変なひとときですが、心をつにして、皆が力を合わせれば、どんな困難

をも乗り越えることができます。新型コロナウイルスのことで色々な制限がありますが、できるだけ早いうちに福岡に移って、これからの日程を決めたいと思います。

長い間福岡教区の牧者として勤められた宮原良治司教様、また、この一年間使徒座管理者として勤められた杉原寛信神父様に心から感謝いたします。

どうか皆様、よろしく願いいたします。皆様の上に神様の豊かな祝福を祈ります。

ヨゼフ・アベイヤ

2020年4月14日